



平成25年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年4月26日

上場会社名 株式会社 篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長兼IR室長

(氏名) 沼崎 昭宏

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成25年5月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第2四半期の業績(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第2四半期	2,321	△6.2	69	△22.3	70	△23.6	51	△28.4
24年9月期第2四半期	2,474	△5.1	89	—	92	—	72	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第2四半期	360.14	—
24年9月期第2四半期	502.73	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第2四半期	2,003	1,172	58.5
24年9月期	1,844	1,120	60.7

(参考) 自己資本 25年9月期第2四半期 1,172百万円 24年9月期 1,120百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年9月期	—	0.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)平成25年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当については業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成25年9月期の業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期の見通しにつきましては分かり次第開示してまいります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期2Q	144,366 株	24年9月期	144,366 株
② 期末自己株式数	25年9月期2Q	— 株	24年9月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期2Q	144,366 株	24年9月期2Q	144,366 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料2ページ「経営成績に関する分析」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の売上高は2,321,328千円(前年同四半期比6.2%減)、営業利益は69,869千円(前年同四半期比22.3%減)、経常利益は70,596千円(前年同四半期比23.6%減)、四半期純利益は51,991千円(前年同四半期比28.4%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当社は、基幹事業である小売事業の基盤を確立するために直営店舗を中心に「豆腐の工場直売所」から「大豆加工食品の専門店」へと三代目茂蔵のブランド力を高めることにより経営基盤の強化を推し進めております。

店舗においては、第1四半期会計期間は惣菜系、デザート・菓子系、こんにゃく、漬物類などの常温系、豆腐、揚げ物類などの素材系とカテゴリーを明確にした売り場づくりをすすめました。当第2四半期会計期間は、この第1四半期会計期間の結果を踏まえ、鮮度感の高い惣菜系、デザート・菓子系を強化することで顧客のリピート率が高まり売上増加が見込めるとの仮説に基づき、「素材屋から惣菜屋へ」をテーマとした売り場づくりをすすめました。また、商品開発につきましては、前期より本格的に始動した豆腐版SPAにより、変化の早い顧客ニーズに対応した様々なカテゴリーの商品の企画・開発・販売に努め、「甘辛だんご」「草餅」「すあま」等の和菓子に加え、「汁だくいなり寿司」「ライスこんにゃく入りたこ飯」「春のちらし山菜づくし」等の米飯が14時までの売上増加に貢献しました。また、「健康」をコンセプトとしたすぐに食べられる惣菜系として自社のテストキッチンを活用し、「大豆のから揚げ」や「豆腐のメンチカツ」「大豆の生姜焼き」「筑前煮」等のお肉を一切使わない惣菜「健康食堂」シリーズを開発・販売し、17時以降の売上増加に貢献しました。この結果、1店舗平均の売上高は、第1四半期会計期間については前年同四半期比93.0%でありましたが、当第2四半期会計期間については前年同四半期比107.7%となりました。

出店につきましては、店舗ブランド向上を優先し既存店舗のリニューアルを中心に行い、2店舗を出店し3店舗を退店しました。

以上の結果、小売事業の売上高は2,016,625千円(前年同四半期比5.1%減)、セグメント利益(営業利益)は123,368千円(前年同四半期比20.9%減)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は304,702千円(前年同四半期比12.9%減)、セグメント利益(営業利益)は38,786千円(前年同四半期比25.0%減)となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	63	2	3	62
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	106	5	12	99
合計		169	7	15	161

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して158,991千円増加し2,003,403千円となりました。主な要因は、現金及び預金が205,902千円増加した一方、有形固定資産が22,874千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して106,999千円増加し831,070千円となりました。主な要因は、買掛金が186,757千円増加した一方、リース債務合計が29,180千円及び未払金が19,732千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して51,991千円増加し1,172,332千円となりました。これは利益剰余金の増加51,991千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度と比較して205,902千円増加し533,310千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、216,594千円（前年同四半期は279,445千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益67,571千円、減価償却費及びその他の償却費30,271千円及び仕入債務の増加額186,757千円、減少要因として売上債権の増加額11,656千円及びたな卸資産の増加額14,176千円及び未払金の減少額10,438千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、18,482千円（前年同四半期は57,156千円の収入）となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入10,030千円、リース債権の回収による収入10,529千円及び割賦債権の回収による収入6,600千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、29,180千円（前年同四半期は31,962千円の支出）となりました。これはリース債務の返済による支出29,180千円によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期の見通しにつきましては分かり次第開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	327,408	533,310
売掛金	140,992	152,617
商品及び製品	30,634	44,100
原材料及び貯蔵品	835	1,544
その他	85,494	66,202
貸倒引当金	△470	△340
流動資産合計	584,895	797,437
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	190,716	175,738
構築物(純額)	18,008	16,711
機械及び装置(純額)	115	2,377
工具、器具及び備品(純額)	40,963	32,466
土地	633,548	633,548
その他(純額)	1,720	1,355
有形固定資産合計	885,072	862,198
無形固定資産		
投資その他の資産	4,196	3,627
敷金及び保証金	202,340	194,410
その他	169,236	146,101
貸倒引当金	△1,329	△371
投資その他の資産合計	370,247	340,140
固定資産合計	1,259,516	1,205,966
資産合計	1,844,411	2,003,403

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	391,950	578,708
リース債務	48,266	38,170
未払金	123,492	103,759
未払費用	47,211	48,473
未払法人税等	30,560	19,541
債務保証損失引当金	32,550	30,050
株主優待引当金	18,500	—
その他	5,491	5,401
流動負債合計	698,021	824,105
固定負債		
リース債務	19,085	—
その他	6,965	6,965
固定負債合計	26,050	6,965
負債合計	724,071	831,070
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,715,805	1,000,000
資本剰余金	2,616,490	120,340
利益剰余金	△4,211,954	51,991
株主資本合計	1,120,340	1,172,332
純資産合計	1,120,340	1,172,332
負債純資産合計	1,844,411	2,003,403

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
売上高	2,474,351	2,321,328
売上原価	1,539,852	1,461,352
売上総利益	934,498	859,975
販売費及び一般管理費	844,528	790,105
営業利益	89,970	69,869
営業外収益		
受取利息	2,131	1,828
為替差益	113	7
受取保険金	1,648	1,308
その他	2,122	828
営業外収益合計	6,016	3,971
営業外費用		
租税公課	2,763	2,329
その他	803	915
営業外費用合計	3,566	3,245
経常利益	92,419	70,596
特別利益		
債務保証損失引当金戻入額	—	2,500
特別利益合計	—	2,500
特別損失		
固定資産売却損	—	363
固定資産除却損	—	3,078
投資有価証券評価損	205	—
店舗閉鎖損失	8,350	2,082
その他	79	—
特別損失合計	8,635	5,524
税引前四半期純利益	83,784	67,571
法人税、住民税及び事業税	11,207	15,579
法人税等合計	11,207	15,579
四半期純利益	72,577	51,991

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	83,784	67,571
減価償却費及びその他の償却費	39,981	30,271
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△715	△260
受取利息及び受取配当金	△2,131	△1,828
為替差損益(△は益)	△113	△7
投資有価証券評価損益(△は益)	205	—
固定資産売却損益(△は益)	—	363
固定資産除却損	—	3,078
店舗閉鎖損失	8,350	2,082
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	—	△2,500
売上債権の増減額(△は増加)	△38,437	△11,656
たな卸資産の増減額(△は増加)	56,911	△14,176
仕入債務の増減額(△は減少)	122,230	186,757
未払金の増減額(△は減少)	40,576	△10,438
未払消費税等の増減額(△は減少)	18,860	△11,102
その他	△25,329	△457
小計	304,172	237,697
利息及び配当金の受取額	2,152	1,840
法人税等の支払額	△26,879	△22,943
営業活動によるキャッシュ・フロー	279,445	216,594
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,021	△6,222
貸付金の回収による収入	1,640	—
敷金及び保証金の差入による支出	△5,376	△2,202
敷金及び保証金の回収による収入	12,489	10,030
リース債権の回収による収入	13,433	10,529
割賦債権の回収による収入	42,444	6,600
その他	△452	△252
投資活動によるキャッシュ・フロー	57,156	18,482
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△31,962	△29,180
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31,962	△29,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	304,641	205,902
現金及び現金同等物の期首残高	114,594	327,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	419,236	533,310

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年12月19日開催の定時株主総会において、欠損の填補を目的とする無償減資について決議し、当該決議について、平成25年1月23日に効力が発生しております。この結果、当第2四半期会計期間において、資本金1,715,805千円、資本剰余金2,496,149千円を減少させ、この減少額4,211,954千円をその他資本剰余金に振替えた後、その全額について欠損の填補を行っております。これらにより、当第2四半期会計期間末において、資本金が1,000,000千円、資本剰余金が120,340千円となっております。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間（自平成23年10月1日 至平成24年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,124,674	349,676	2,474,351	-	2,474,351
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,124,674	349,676	2,474,351	-	2,474,351
セグメント利益	156,053	51,707	207,760	△117,790	89,970

(注) 1. セグメント損益の調整額△117,790千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間（自平成24年10月1日 至平成25年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,016,625	304,702	2,321,328	-	2,321,328
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,016,625	304,702	2,321,328	-	2,321,328
セグメント利益	123,368	38,786	162,154	△92,284	69,869

(注) 1. セグメント損益の調整額△92,284千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。